

第28回 岐阜県サミット

提言書

平成28年5月16日

岐阜創生は“人づくり”から
—あるべき岐阜の未来を見すえて

[岐阜創生委員会]

※ 当提言は平成28年2月24日に発表されたものである。

一般社団法人 岐阜県経済同友会

はじめに — “岐阜愛”を持った人づくりを—

人口減少を前提とした社会においては、ダウンサイジングを意識した“持続可能なまちづくり”が必要不可欠であり、地域のことは地域で解決する住民主体・行政参加型のまちづくりを進めるべきである。

いわゆる増田レポート[注1]をきっかけとして多くの自治体は「まちづくり」や「仕事づくり」、「域外や海外から人を呼び込む」ことでの“地方創生”を考えている。それらを成功させるためには地域の魅力をつくり、地域の魅力を発信する必要がある。今こそ、私たちは地域の知恵を結集しなければならない。知恵は知識や情報だけでなく、その地域の歴史や暮らしの中で生まれ、地域を正しく理解し、想う心を持った人々から生まれる。

岐阜創生とは地域の知恵を結集し、岐阜にある素晴らしい自然や歴史、文化、産業といった地域資源を更に活かしていくことである。当然ながら郷土に愛着と誇りを持たなければ、地域資源を理解することは困難であり、地域の活性化はおぼつかない。

また、郷土愛が自然に育まれるには幼少期からの体験や教育がとても重要である。その教育のあり方が戦後大きく変化したとは言えないか。郷土や国を想う心、日本人としての誇りや精神など、大切なことが教えられないまま現在に至っているのではないか。

子供たち、そして大人も含め、日本の歴史と日本人であることに誇りを持ち、郷土のことをもっと好きになれば、この国は間違いなく良い方向に向かう。地方創生は日本創生そのものであり、岐阜のために知恵を出し合うことで日本の未来は明るいものになる。

我々は、岐阜創生の根幹は人づくりであり“岐阜のことを正しく知り、想い、愛する気持ち”すなわち“岐阜愛”を持った人づくりが重要と考え、その施策について以下の提言をする。

[注1] 平成 26 年 5 月に「日本創生会議」（増田寛也座長）が 30 年後の「消滅可能性都市」を指摘し、全国約 1,800 市町村のうち 896 の自治体が消滅すると予測した。

[提言の概要]

- 岐阜創生には「まちづくり」や「仕事づくり」など、様々な面からアプローチできるが、当委員会は岐阜にある豊富な地域資源を活かすためには「岐阜を正しく知り、想い、愛する気持ち」が重要と考え、＜“岐阜愛”を持った人づくり＞をコンセプトに岐阜創生を検討した。

- <“岐阜愛”を持った人づくり>について各委員の意見を集約すると、次の通りとなった。
 - ① “岐阜愛”を醸成するためには幼少期からの体験や学びが必要
 - ② 郷土と国に愛着を持ち、日本人であることに誇りを持つことが大切
 - ③ 子供だけでなく、大人も岐阜を学ぶきっかけとなるプログラムが必要
 - ④ 岐阜の魅力を広く内外に伝えるには発信力・PR力の強化が必要

これらを踏まえ、子供向け・大人向けにそれぞれ具体策を提案する。

<提言の概要図>

“岐阜愛”を持った人づくりを<コンセプト>

岐阜創生にはその地域の魅力をつくり、伝えるための知恵が必要で、“岐阜愛”を持った人づくりを充実させるべきである。

提言Ⅰ 子供のための“岐阜愛”教育の充実を

子供の“岐阜愛”醸成の一助として、県内の全小・中学校で「岐阜の偉人」を学ぶことと、その教材を公募することを提案する。

提言Ⅱ 大人が岐阜を学ぶための支援を

大人が岐阜を学ぶ機会の一つとして、“転勤族”の方々が岐阜を学び、同時に岐阜の魅力を発信できる方策を提案する。

- 提言Ⅰは、子供の“岐阜愛”を醸成する方法の一つとして、岐阜の地域資源でもある県内各地に存在する「岐阜の偉人」を県内の全小・中学校で学ぶことと、その教材を公募することを提案する。[意見①②]
- 提言Ⅱは、“転勤族”の方々が岐阜を学ぶ機会の提供と岐阜の魅力を発信・PRするための方策として「岐阜支店長会」を提案する。[意見③④]

提言Ⅰ 子供のための“岐阜愛”教育の充実を

子供の“岐阜愛”醸成の一助として、県内の全小・中学校で「岐阜の偉人」を学ぶことと、その教材を公募することを提案する。

■ 子供を取り巻く環境

岐阜には自然や歴史や文化、産業といった地域資源が豊富にあり、子供の“岐阜愛”を醸成するには、その環境を十分に活かすべきである。しかしながら核家族化や地域の連携の希薄化が進み、子供たちは親や祖父母、近所の大人と接する機会が減少し、日常生活の中で郷土について学ぶ環境は少なくなっている。

加えて、教育環境が戦後大きく変わった。国史が日本史に変わり神話や建国の記述が削除され、国柄や日本人の精神を説いた教育勅語や修身は廃止となった。日本人の良さや誇り、公の精神など大事にすべきことが抜け落ちたまま現在に至っているのではないか。

平成18年の教育基本法改正では、前文に「公共の精神を尊び」という文言を追加し、第2条第5項は「我が国と郷土を愛する態度を養う」ことを定めた。裏を返せばそれらが自然に養われることが難しくなった表れとも言える。

例えば、教育に関するある調査では、全国小中学校の校長と保護者がこれまで充分に取り組んでこなかった教育活動は何かと問われて「社会や他人のために尽くすこと」を一番に挙げている^[注2]。すなわち「公の精神」に関する教育が、学校においても家庭においても十分でなかったと考えている。

また、郷土愛に関する別の調査では、岐阜県民の出身地に対する「愛着度」と「自慢度」が他県民より相対的に低いというデータがある^[注3]。これは岐阜には魅力的な地域資源が豊富にあるにも関わらず、県民が十分に認知していないことを示している。

[注2] 国立教育政策研究所が平成17年年度に全国小中学校の校長及び保護者約9,000人を対象に実施した調査結果。(出典：国立教育政策研究所 HP)

[注3] (株)総合ブランド[®]研究所の平成22年の調査によれば、岐阜県出身者の出身地に対する「愛着度(愛着があるかどうか)」「自慢度(誇りに思うかどうか)」はそれぞれ47都道府県中37位、42位といずれも低位であった。(出典：(株)ブランド[®]総合研究所 HP)

このような環境下では、子供たちが郷土に愛着を持ち、それが国への誇りにつながり、また日本人としてのアイデンティティを確立することは決して簡単なことではない。

■ 岐阜の偉人を「公募」し、独自教材の作成を

子供を取り巻く環境は、前述の通り複雑に絡み合い一朝一夕には解決することは難しいが、地道に取り組むべき問題である。一方で戦後70年が経ち、昨今では日本の歴史や日本人の良き点を見直す動きが少しずつ出てきており^{注4}、それが郷土や国への愛着と誇り、公の心に基づく日本人の精神性が育まれる土壌となることを期待するが、我々は岐阜独自の取り組みも必要と考える。

岐阜県は郷土愛や公の精神を醸成する教育の一環として、地域の自然・歴史・文化・産業等に学ぶ「ふるさと教育」や心のノート等の教材を使用した「道徳教育」を既に実施しており、これらの取組みは十分に評価されるべきである。

「ふるさと教育」や「道徳教育」では、自治体や学校各自が郷土の偉人を題材にしているケースもあるが、我々はそれを更に一歩進めて“岐阜の偉人”を全県で学ぶべきと考える。なぜなら“岐阜の偉人”の足跡を通し、歴史や公の精神を学ぶことが“岐阜愛”の醸成につながり、それが国への誇りや日本人としてのアイデンティティ確立の一助になると考えるからである。

岐阜県には先頃映画化された杉原 千畝（すぎはら ちうね）をはじめ、全国的な知名度は低くとも佐藤 一斎（さとう いっさい）や高木 貞治（たかぎ ていじ）といった偉人と呼ばれる先人が各地に存在しており、教材としての素材は豊富にある。

そこで、我々は『県内の全・小中学校で“岐阜の偉人”を学ぶことと、その教材を公募する』ことを提案する。

【注4】 マンリオ・カデロ氏著書「だから日本は世界から尊敬される」や竹田恒泰氏著書「日本はなぜ世界で一番人気があるのか」が過去ベストセラーとなる。両氏は平成27年度の弊会「会員例会」の講師として講演を開催。また平成27年12月にはトルコ/エルトゥールル号を題材とした物語「海難1890」や岐阜の偉人「杉原千畝」が映画化されるなど、日本の歴史を見直し、日本人の良き点を再認識する動きがある。

<教材公募のイメージ>

－ 募集要項<案> －

(対象)

- 社会や他人のために尽くし、岐阜または日本、もしくは世界に影響を与えた岐阜にゆかりのある人物とその業績

(内容)

- 県内の全小・中学校の「道徳の時間」に使用する教材

(応募資格)

- 岐阜県在住の個人、法人、学校、各種団体、自治体など

(応募方法)

- 企画提案書（所定の様式）による

公募は小中校長会などの支援を得ながら、一般市民も応募可能とし、官民が連携して英知を結集し岐阜県独自の教材作成を目的とする。これまで見落とされがちな人物や偉業にスポットライトが当たれば、岐阜の新たな地域資源の発掘につながる可能性もある。

また、先人の偉業や歴史的事実の中には従来 of 学校の授業では教えられていない素晴らしい話がたくさんあり、その感動を伝えることが、子供たちの公の精神や更なる“岐阜愛”の醸成につながると考える。

（“岐阜の偉人” の一例）

杉原千畝は加茂郡八百津町に生まれた。杉原はユダヤ人へのビザ発給により約6千人もの尊い命をナチス・ドイツの迫害から救った外交官だが、ごく一般の環境と家庭の中で育った普通の人であった。その普通の人が自国の文化を愛しながらも他国の人と共感できる国際人としての資質を持ち、ユダヤ人大虐殺が行われた第二次世界大戦という特異な環境の中で人間として偉大な行為を行った。[注5]

佐藤一斎は岩村藩出身の江戸時代後期の儒学者であり、塾長を務めた昌平坂学問所の門下生は3,000人を超す。その弟子の中には佐久間象山や渡辺崋山が、孫弟子には吉田松陰、坂本竜馬、勝海舟などがいる。一斎は明治時代に新しい日本を作った指導者たちに大きな影響を与えた人物である。著書には有名な「言志四録」がある。[注6]

高木貞治は本巣郡一色村（現本巣市）に生まれ、帝国大学理科大学（現東京大学理学部）を卒業後、ドイツのゲッチンゲン大学に3年間留学した。そこでヒルベルト教授に師事し、多大な影響を受ける。世界の数学界の課題であった難問、類対論に取り組み、論文を発表。これが「高木類対論」と呼ばれ、世紀の金字塔となった。数学界のノーベル賞といわれるフィリーズ賞の審査委員にも選ばれた。[注7]

[注5] 出典：八百津町 HP

[注6] 出典：岩村町 HP、政策シンクタンク PHP 総研 HP

[注7] 出典：わかりやすい岐阜県史（編著：岐阜県）

■ 将来の礎となる人材を

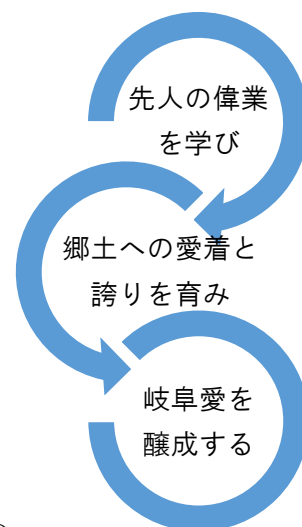
先人の偉業を通じ、子供たちの郷土への愛着と誇りを育み、“岐阜愛”の醸成につなげる。“岐阜愛”を持ち、岐阜のために知恵を働かす子供が増えればその影響は家庭及び大人へも波及し、自ずと岐阜の魅力は高まる。

“岐阜愛”が醸成されれば、仮に県外の大学に進学してもUターン就職する動機に成り得るし、未来の“地域づくり”や“産業づくり”の礎となる地域にとって欠かせない人材が育つことも期待できるのではないか。

また、昨今ではグローバル人材の育成が求められているが、日本が真の国際化を果たし、グローバル社会の一員として活躍するためには、縦横無尽に英語を操るスキルを身に付けた人材が必要である。ただし、単に英語を話せるだけではなく、自身のルーツである“日本”を英語で発信できなければグローバル社会の中では尊敬されない。

求められるグローバル人材とは、自身が育った郷土と国に愛着と誇りを持ち、日本人としてのアイデンティティーを確立したうえで、英語をコミュニケーションの“道具”として使える人材であろう。

“岐阜愛”の醸成をその第一歩としたい。



提言Ⅱ 大人が岐阜を学ぶための支援を

大人が岐阜を学ぶ機会の一つとして、“転勤族”の方々が岐阜を学び、同時に岐阜の魅力を発信できる方策を提案する。

■ 大人の多様なニーズ

大人は子供と違い自主的に学ばなければならないが、各自が置かれた環境も多様である。その様々な環境下で岐阜を知り、愛着を持つような仕掛けが必要と考える。

(想定されるニーズの一例)

- ・ 県外から移住または転勤してきた人は新しく岐阜を知り、学びたいニーズがあるのではないか。
- ・ 岐阜にずっと住んでいながらも郷土の歴史や文化に対して疎かった人が改めて郷土のことを知り、学びたいニーズもあるのではないか。
- ・ Uターン就職した若者等が新たな視点で郷土を見直したいニーズもあるのではないか。

以上のような大人のニーズに応えるために、効率よく岐阜を学べる「プログラム」を作成することも必要ではないか。例えば、ぎふメディアコスモスに“岐阜愛コーナー”を設け、歴史・グルメ・地域などテーマごとに分けた“推奨プログラム”を作り、興味のあるテーマを切り口に書籍やDVDを利用して岐阜を学んでもらうことも出来るのではないか。

大人が岐阜を学べば、当然その効果は子供にも波及し、“岐阜愛”の良い循環が期待できる。

■ 転勤族への“おもてなし”を

一方、“岐阜愛”の醸成には、岐阜にある豊富な地域資源を内外に発信・PRすることによって、住民が改めてその魅力に気づき、郷土への愛着と誇りを育むことも重要である。

我々は岐阜を知るだけでなく、更にその魅力を発信する仕掛けが必要であ

ると考え、全国各地から岐阜県に赴任している、いわゆる“転勤族”の方々に着目した。以下に述べる彼等に対する“おもてなし”が“岐阜愛”の醸成につながるのではないかと考えた。

具体的には、全国各地から岐阜に赴任している“転勤族”の方々への“おもてなし”として、『「岐阜支店長会」を組織し、学びとネットワークづくりの場を提供』することを提案する。

■ 具体策 — 「岐阜支店長会」の企画—

「岐阜支店長会」の概要は次の通り。

岐阜県に本店所在地を置かない企業の支店長や支社長等を対象に「岐阜支店長会」を組織し、学びとネットワークづくりの場を提供する。

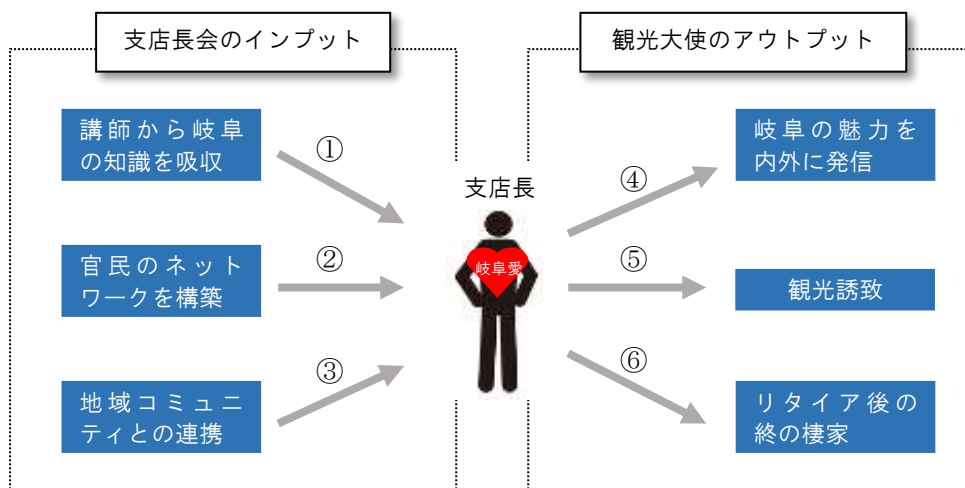
(次頁のイメージ図を参照)

- ① 講師が定期的に岐阜の歴史や文化、特産品等を深く効率良く教え、会員に岐阜を知ってもらおう。
- ② 民間企業だけではなく、県庁や市役所に在籍する中央官庁からの出向者も本会の対象とし、官民のネットワークを構築する。
- ③ 地元企業経営者や地元経済団体幹部もオブザーバーとして参加する。祭りやスポーツ大会等の地域行事への参加を通じ、地域コミュニティとの連携を図る。
- ④ 会員は、各自のネットワークを使い岐阜の魅力を広めて頂く特命観光大使「しゃちやき大使」[注8]に任命し、岐阜の魅力を内外に発信してもらおう。岐阜県外に異動後も「終身しゃちやき大使」に任命し、岐阜のPRに努めてもらおう。観光大使としての誇りが、岐阜を学び、愛着を持つ動機となり得る。
- ⑤ 「しゃちやき大使」として岐阜の魅力を発信し、所属する企業やプライベートの旅行先として、岐阜を選択肢の一つに挙げてもらおう。
- ⑥ 岐阜を知り愛着を持ってもらえれば、岐阜がリタイア後の“終(ついで)の棲家(すみか)”となる可能性もある。

転勤族の方々にとって、岐阜が“ただ通過するだけのまち”になってしまうのはもったいなく、我々は岐阜の魅力を少しでも知ってもらいたいと考える。

[注8] 岐阜弁：「しゃち（を）焼く」（お節介を焼く、口をだす）の意味

～岐阜支店長会のイメージ～



▼当委員会で出されたその他の“大人向け施策”を以下に紹介する。

＜転勤族 奥様教室＞

転勤族の方々の奥様向けに「転勤族 奥様教室」を開催し、地元ボランティアの協力を得て運営する。そこでボランティアが地域の歴史や文化、祭りなどを教える。奥様方が地域コミュニティへ溶け込み易くなれば、岐阜のファン作り、口コミ等による魅力発信にもつながるのではないかと期待する。

＜観光マイスター制度＞

大人が岐阜を学ぶきっかけとして「観光マイスター」制度を策定する。岐阜に関する知識と愛着を持った人を検定試験により「観光マイスター」として認定し、観光を切り口に“岐阜愛”を持った人づくりを促進する。各地に点在する一定レベルの観光案内人や観光ボランティアを「観光マイスター」として認定し、更なる郷土への愛着と誇りづくりにつなげる。「観光マイスター」は試験、研修等を定期的実施し、その質を一定に保つ。

＜自然を活かしたマラソンコース＞

マラソンブームと全国森林率2位の地域資源を活かして、例えば“一度は走ってみたいまち”として岐阜をPRし、県内外からマラソンランナーを呼び込む。県内ランナーには楽しみながら岐阜の大自然を感じてもらい、郷土への誇りづくりへとつなげ、県外ランナーには岐阜を知るきっかけ作りができる。岐阜には「いびがわマラソン」や「高橋尚子杯ぎふ清流マラソン」など、知名度が高いマラソン大会も多く存在する。「ぎふマラソンマップ」を作成し、岐阜の“いつ、どこで、どんなコース”のマラソン大会が行われるのかを纏めて発信することも、岐阜の魅力を伝えることに役立つのではないかと期待する。

おわりに

あるべき岐阜の未来とはどのような姿か。自分が生まれ育った郷土や国について正しく知り、愛着や誇りを持った人が増え、皆が知恵を出し合えば、たとえ人口は減少しながらも産業は活発で、魅力あるまちを維持し、人々がいきいき

と暮らすことができるのではないか。我々はその第一歩として“岐阜愛”の醸成を求めている。“岐阜愛”を持った人材が岐阜創生の礎となり、日本の創生につながることを強く願い、各種施策の支援・充実を期待する。

活 動 経 過

■ 第1回委員会

- ・ 開催日 平成27年6月29日（月）
- ・ 時 間 14：00～16：00
- ・ 場 所 岐阜都ホテル
- ・ テーマ 提言のテーマについて
- ・ 出席者 筆頭代表幹事、委員20名

■ 第2回委員会

- ・ 開催日 平成27年8月28日（金）
- ・ 時 間 15：00～17：00
- ・ 場 所 岐阜都ホテル
- ・ テーマ 提言の方向性について
- ・ 出席者 筆頭代表幹事、委員19名

■ 第3回委員会

- ・ 開催日 平成27年11月27日（金）
- ・ 時 間 14：00～16：00
- ・ 場 所 岐阜都ホテル
- ・ テーマ 提言の骨子について
- ・ 出席者 委員18名

※このほか、正副委員長会議を随時開催。

委員名簿

委員長

澤田 栄 丸栄石油(株) 代表取締役社長

副委員長

後藤 康弘 (株)パールマネキン 代表取締役社長

委員

秋葉 和人 (株)十六銀行 取締役経営企画部長

岩田 勝美 (株)岩田鉄工所 代表取締役社長

加座 教雄 (株)近鉄・都ホテルズ 岐阜都ホテル 取締役総支配人

國井 重宏 國六(株) 代表取締役社長

熊田 典枝 (株)アースプラン 代表取締役

児山 丈夫 (株)ジムブレーション 代表取締役社長

酒井 正吾 ハビックス(株) 代表取締役会長

末松 正幸 (株)K V K 代表取締役社長

鈴木 岳志 岐阜製版(株) 代表取締役

田島 禎行 (株)田幸 常務取締役

中居 和男 岐阜商工信用組合 理事長

中川 幸生 東京海上日動火災保険(株) 理事岐阜支店長

中谷 敬子 サンリツ(株) 専務取締役

松田 英文 りゅうでん(株) 代表取締役

南 榛名 東邦ガス(株)岐阜支社 支社長

村瀬 尚子 (株)ソフィア総合研究所 代表取締役社長

八代 俊 (株)デザインボックス 代表取締役

山田 彰 (-財)岐阜健康管理センター 副理事長

山田 博文 岐阜車体工業(株) 代表取締役社長

渡 部 勝 裕 大東(株) 代表取締役社長

以 上

 一般社団法人 岐阜県経済同友会

事務局 〒500-8727

岐阜市神田町2丁目2番地
(岐阜商工会議所ビル5階)

TEL (058)264-4936 FAX(058)264-4951
info@gifu-doyukai.com
<http://www.gifu-doyukai.com/>
